

平成26年度 大阪市社会教育委員会議 第2回全体会 議事録

1. 日 時 平成26年8月29日(金) 午後2時から4時
2. 場 所 大阪市立難波市民学習センター 講堂
3. 出席者
(委員)
岩槻委員・木原委員・笹川委員・佐藤委員・立田委員・長谷部委員・平井委員・弘本委員・森下委員・宮田委員・八幡委員
(教育委員会事務局)
宝田教育次長・森本生涯学習部長、濱崎生涯学習担当課長、植木文化財保護担当課長、大上経済戦略局文化部文化課長、唐澤区役所人権生涯学習担当課長会議代表
4. 議事概要
 - (1) 開会
 - (2) あいさつ
 - (3) 出席委員・出席関係職員紹介
 - (4) 議案
 - ・ 社会教育委員会議の役員について
 - ・ 小委員会の委員について
 - ・ 意見具申の作成について
 - (5) 報告
 - ・ 社会教育委員の異動について
 - ・ その他
5. 主な意見等について
(意見具申について)
 - ・ これからの時代において、人・モノ・金は不足していくのが前提となる。知識・知恵を活用して、人・モノ・金の不足を乗り越えていく必要がある。団体や企業と連携しながら、もっと知恵を使って、問題解決を目指す社会づくりについて考えていく必要がある。子どもの教育のみならず、大人、市民一人一人について「問題解決力」が培われていく必要があり、それを新しい計画の中に盛り込んでいく必要があるのではないか。
 - ・ ピンチをチャンスにかえるために、「知の還流」を目標にすると可能性がみえてくる。地域活動協議会のあり方も、各地活協単位で閉じられた活動をするのではなく、地活協間のネットワークや、他の市町村とのネットワークを構築していく必要がある。より広い環流をひらいていくためには、ICT、SNS の利用が有効。これらのツールは危うさもあるが、可能性も持っている。

- ・生涯学習の理念や事業が現場にどれだけ活かされているのかが、課題であり、問題であると思う。地域における新しい団体ができて、現場にどれだけ事業の理念や内容が伝わるかが課題。
- ・大阪は、元来民が作ってきた町。アーツカウンシルは、文化は民が守るべきという発想だが、ここにこれからの生涯学習に対する一つのヒントがある。これからは地域に大学や企業を巻き込むなどして、行政だけに頼らないシステムを作っていく必要がある。
- ・一人一人が個々に主体的に考え行動するという部分と、地域の連携、つながりという部分を両論併記したままでいくとしんどいのではないか。どこかの段階で地域のつながりの方が大事であると書いていってもいいのではないか。
- ・若い世帯で、一人世帯が国際的に増えている。高齢者にも一人暮らしが増えており、全体的に単身世帯が増えてきている。このような状況の中、これまで以上に地域のつながりが大切になってきており、どのようにつながりを作るかが重要になってくる。
- ・世界的に地震や津波が頻繁に起こるようになった。防災教育が大切になってくる。
- ・グローバル化、国際化のような視点も生涯学習に取り入れていく必要がある。
- ・小学校、大学だけでなく、中学校、高校についても、取り上げていく必要がある。
- ・地域で活動する各団体の課題として、団体の中に事務のノウハウがないということがある。
- ・生涯学習も含めて、各取り組みに対して知らない人、わかっていない人にどのように周知していくかが課題。広報誌や口コミだけでなく、活動のための拠点づくりを広げていく必要がある。
- ・生涯学習推進員は、これまでの変革に対する対応の経験から、現在の変革の流れに対しても、早く呑み込めて変わっていけるという自負がある。地域内でしっかりと発言できる人がいないと地域は変わっていかない。
活動についてのノウハウを持つ機会を与え、育ててくれた行政には感謝している。
このようなノウハウを持つ人材をもっと育てていって、その人たちが地域で活動していけば大阪市のためになるのではないか。
- ・今は、学校教育も、校内だけではなく、地域の人材や、大学、企業、幼稚園、保育所、福祉施設など地域内の施設などとの交流なしでは、学びえない時代となっている。地域に人材がいかにかたくさんいるか、いかに、地域に人材を育てていくのかということが大事になってくる。
今、学校現場には経験の少ない若い教員が増えている。一方で新たな取り組みの業務が増え、パンク状態になっている。いかに地域全体で学校を支えていくのかということが課題となっている。今学校がどのような課題を持っているのかを地域に知ってもらって、その上でどんな関わりができるのかについて考えていく必要がある。

- 住宅政策や、コミュニティ、まちづくりの分野において共通して、地域における「学び」「学習」が共通の課題となっている。住民（市民）が共に学びながら課題を発見し、解決していく必要が出てきている。

個人と地域をどのようにつないでいくのかというところで、個の選択が地域にとってもいい選択である、自分が大事=社会が大事というようになるようなことを考えていく必要があるのではないか。

大阪市には、歴史的・文化的資源がたくさんある。歴史的ストック、文化的ストックを活用しながら、個がまとまっていけるような方法を考えていけばいいのではないか。

- 大阪市地域女性団体協議会について、昭和 24 年の結成以来、女性学級の開催や、「みおつくしの鐘」をはじめとする寄贈、地域の美化活動など様々な活動をしてきたが、市政改革の流れの中で、拠点がなくなってしまったので、今は事務的なことについては、男女いきいき財団に委託している。そのような部分についてもこれから自主的にできるように頑張っ活動をしていきたい。